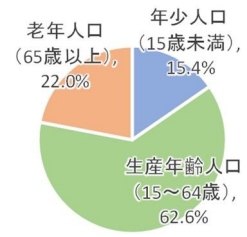


	世帯数	人口	年齢別人口
現在	190 世帯	412 人	15歳未満 (年少人口) 65 人
			15～64歳 (生産年齢人口) 265 人
			65歳以上 (老年人口) 93 人
約50年前	102 世帯	416 人	



10年間の推移

歴史等

古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組では、はじめは八反田組、寛延2年(1749)の一揆後の寛延3年(1750)からは辻川組に属しました。明治9年(1876)に南田原村の一部となりました。

氏神の田嶋神社は、古くから歯痛患者が祈願すると霊験があると伝わり、数十年前までは県・町外からも多くの参拝者があったと言います。境内のご神木のムクノキは二代目で、先代は推定樹齢400～500年、幹回りは5～6mあったとされます。

また、市川河岸の駒ヶ岩は、柳田國男の『故郷七十年』の中で、水遊びをしていると河童にお尻を抜かれるという逸話を書き残していることでも知られ、福崎町キャラクターのフクちゃん・サキちゃんはこの河童伝説がモチーフになっています。



田嶋神社



西源寺



駒ヶ岩



田嶋神社のムクノキ



南田原水路改修記念碑



秋祭り・屋台

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
建造物	石造物	1	南田原水路改修記念碑（西野水路横）	昭和36年（1961）	水路改修記念の石碑。正面には「南田原水路改修記念碑」と記されている。			●			
		2	道標（西野々路傍）	不明	法華道の道標。正面には地藏菩薩の像容とともに「右 太尾邑 左 法花山」と記されている。太尾村への道は但馬道に続く道筋にあたる。				●	●	
	その他の構造物	3	雲津橋	昭和4年（1929）	鉄筋コンクリート造で、橋長7.3m、幅6.1mである。		●			●	
		4	神崎橋	昭和8年（1933）	鉄筋コンクリート造・鉄骨造で、橋長157m、幅8.7mである。国道312号として利用される。		●			●	
有形の民俗文化財	祭具	5	屋台（西野区）	—	神輿屋根型屋台。平成8年（1996）に灘の木場から屋台を購入。幕の金網、伊達綱、高欄掛け、内側の手縄などのスタイルも、木場屋台のものを受け継いでいる。露盤は津利義幸氏、狭間は三代目松本義廣氏の作品。				●	●	
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	6	秋祭り（田原）	—	田原地区の屋台12台（布団屋根型10台、神輿屋根型2台）・神輿1台が熊野神社に集まる。本宮では、各屋台が鳥居をくぐった後に拝殿前で差し上げを行い、境内を回った後、拝殿の裏を回り定位置に据えられる。屋台の宮入りが終わると境内中央の舞台で浄舞、浦安の舞が奉納される。			●	●	●	
		7	斎灯	—	2月3日に田嶋神社で行われる。				●		
		8	夏祭り	—	7月19日に田嶋神社で夏祭神事が行われる。				●		
		9	盆祭り	—	8月26日に公民館で行われる。				●		
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	10	南田原桶川遺跡	旧石器時代～中世	溝やピット（小さな穴）、石器や土器、底部に墨書のある須恵器の坏などがみついている。また、遺構を伴うものではないが、旧石器時代のナイフ型石器や中世の土師器鍋などもみつかり、連綿と人々が住み続けてきたことが分かる。		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり										
				①	②	③	④	⑤	⑥					
遺跡	古道・街道等	11	生野鉱山寮馬車道	明治9年(1876)	生野鉱山(朝来市)と飾磨津(姫路市)を結ぶ全長49kmの馬車道。鉱山物資等を運ぶための産業道路として、明治6年(1873)に計画し、明治9年(1876)に完成した。当時の道路構造を保つところは少ないが、現在も道路として使用され、当時の道筋を知ることができる。								●	●
		12	生野街道(但馬道)	—	姫路から但馬へと通じる南北道。道標には「但馬道」と記されているものが多く確認されるため、江戸時代には「但馬道」と呼ばれていたことが分かる。								●	
	その他の遺跡	13	駒ヶ岩の船着き場	江戸時代～明治時代中期	市川の川岸から駒ヶ岩にのびた石組は、高瀬舟の船着き場で「湛保」と呼ばれた。秋に三木家に運び込まれた年貢米はここから高瀬舟で飾万津(姫路市)へと下り、大坂へ送られた。明治中期まで使われ、市川実測図にも描かれている。周辺は「浜倉」とよばれ、積み荷の集積・保管倉庫が建っていたと伝わる。					●			●	
名勝地	河川	14	市川	—	下流域は川幅が広く、砂州や後背水域など多様な環境が形成され、河川自然植生の多様性が高く、魚類の在来種も多いことから、兵庫県レッドリスト(B)に掲載されている。また、月見橋下流右岸と神崎橋下流左岸は、ミクリ・ナガエミクリが生育する川辺植物群落として兵庫県レッドリスト(C)に掲載されている。					●				
		15	雲津川	—	東雲津橋の西約70mの所に「雲津川改修記念碑」がある。大正7年(1918)から改修費用を積み立て、昭和3年(1928)の天皇即位に伴う記念事業として県費補助を受け、昭和4年(1929)3月に竣工したという。その後昭和45年度や平成6～12年度頃に部分改修が行われ、平成11年(2009)には雲津川に架かる巖橋が辻川山に移設・保存された。					●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

西 野

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
動物・植物・地質鉱物	植物	16	田嶋神社のムクノキ	—		●		●		
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	17	下井用水	—			●			
		18	西光寺野用水 (岡部川疎水路)	大正3年 (1914)			●			
その他	信仰の場	19	田嶋神社	—				●		
		20	西源寺	—				●		
	寺社の行事	21	彼岸会(春)	—					●	
		22	彼岸会(秋)	—					●	
	民間説話・地名・伝承地・屋号等	23	駒ヶ岩	—		●			●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・平成 26 年 2 月(2014)に東側の宅地用地 692 m²を取得し、7 月に神社境内地に地目変更、平成 29 年(2017)に整備を行い、駐車場・広場として区民の憩いの場となっています。
- ・西野祭り保存会を組織し、区に伝わる伊勢音頭、祭り太鼓の保存・継承並びに、後継者の育成を実施しています。
- ・田嶋神社に保存されていた先代の神木ムクノキを、平成 27 年(2015)に建屋で囲い保存しています。
- ・福崎町(地域振興課)と駒ヶ岩周辺の草刈りなどを行っています。



田嶋神社のムクノキの囲い保存